

平成28年度市政懇談会会議録

開催日時：平成28年4月26日（火） 午後7時～午後8時

開催場所：境総合文化センター 小ホール

参加者：147人

市側出席者：五十嵐市長、吉田副市長、徳江教育長

佐藤総務部長、福田企画部長、池田財政部長、松島市民部長、茂木環境部長、
武井健康推進部長、三澤福祉こども部長、横山長寿社会部長、出崎経済部長、
岩佐建設部長、笠原都市計画部長、毛呂公営事業部長、喜楽水道局長、
笠原消防長、高尾経営企画部長（市民病院）、大澤会計管理者、
大澤監査委員事務局長、荻原教育部長

- 1 開 会 司会進行（企画調整課長）
- 2 特別職の紹介・市職員（部局長）の紹介
- 3 市長あいさつ

皆様、こんばんは。本日は、夜分お疲れのところ、また、お忙しい中、市政懇談会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

この市政懇談会は、年度当初にあたり、本年度、当市がどのような方向を目指していくかについて、概略をご報告させていただき、また、皆様から、ご質問、ご要望等をお受けして、市政に反映させていこうという趣旨のもと、開催するものです。

ご報告に入る前に、先日、熊本を中心とした九州で発生した大災害に対して、心からお見舞い、また、お悔やみを申し上げます。この災害にあたり、当市においては、昨日から、建物の危険度判定士の資格を持つ職員6人を熊本に派遣し、作業にあたっているところです。また、市民病院においても、医師及び看護師の派遣準備を進めているところです。今後も、現地の要請に応じて、できる限りのお手伝いをしていきたいと思っておりますので、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

それでは、スクリーンをご覧くださいながら、平成28年度の重点政策等について、ご説明させていただきます。

4 重点政策の概容

- (1) 平成28年度重点政策について <市長説明>
- (2) 質疑応答 <特別職及び部局長> (7:35～)

※質問及び回答の要旨を掲載しています。

◆空き家調査の結果について

【質問】

昨日の新聞に、空き家対策計画について、県内7市町村が策定予定との記事が掲載されておりました。伊勢崎市では、昨年12月中旬から、今年2月に空き家の調査をしていたかと思いますが、その調査の結果、どの程度空き家があるのか、その内、倒壊の恐れのある空き家がどの程度あるのか、わかる範囲で教えていただきたいと思っております。

【回答】（環境部長）

空き家の調査結果についてですが、水道や課税状況のデータを突き合わせたところ、空き家の可能性がある建物が、約3,500件ありました。その内、実際、調査員により現地を確認したところ、空き家の可能性がある建物が約1,500件ありました。また、その中でも、特に状況の悪い、いわゆる特定空き家の可能性がある建物は、約40件でした。

◆災害時の要援護者名簿について

【質問】

東日本大震災を経て、災害対策基本法が改正され、各市町村に、災害時の要援護者名簿の作成が義務付けられました。伊勢崎市においても、一昨年5月に名簿が作成され、民生委員や地域の自主防災組織等にその名簿をいただき、地域で共有することができました。その後、昨年の広報いせさき1月1日号に、名簿作成に係る登録に対する呼び掛けが掲載されていました。第1回の登録時は、手挙げ方式だったため、元気な方が名簿に載っていたり、本来載るべき方が漏れていたりましたが、昨年の登録時には、地域の民生委員として、漏れのないよう登録をしていただくための取り組みを行いました。昨年5月頃には名簿が作成されるかと思い、市に問い合わせたところ、システム変更により暫く名簿は出せないという話でした。その後、今日に至るまで名簿を確認することができていません。

私の担当する地域では、38人の登録がありましたが、その内、すでに5人がお亡くなりになり、5人が施設に入所され、現在、約4分の1の登録者がすでに名簿の対象外となっています。さらに、要介護認定を受け、支援が必要となった方も増えています。

今回、熊本地震でも、被災者の多くは高齢者だということなので、やはりこの災害時の要援護者名簿については、例え手作業であっても作成し、地域に提供していただき、地域で共有していく必要があるのではないのでしょうか。災害は、いつ起こるかわかりません。

群馬県では大きな地震があまりないと言われていますが、東日本大震災後、県では地震被害想定調査の見直しが行われ、その結果には、太田断層による地震が取り上げられました。太田市に隣接している伊勢崎市東部の境地域では、震度6強が予想されているようです。太田市内においては、震度7のところも多数発生し、千名を超す死者及び8千人近い負傷者が出ると予想されているようです。このように、いつ地震が起きてもおかしくない状況なのです。今回の熊本地震からもそのようなことが言えると思います。

ぜひ、災害時の要援護者名簿の作成をきちんとやっていただきたいと思います。法の改正により義務付けられているのですから、よろしくお願いします。このことは、市の第6期高齢者保健福祉計画の中でも、地域包括ケアシステムの関係で推進されていると思います。地域内での見守りや助け合いを日常的に進めることにより、災害時における有効な支援活動につながるのではないのでしょうか。この名簿は、災害時だけではなく、日々の支え合いや助け合い活動にも重要な役割を持つものであると捉えていただきたいと思います。

また、名簿作成に係る登録について、現在は、市の広報紙の一部のスペースで周知を促しているようですが、この方法では、本当に必要な方が登録しないのではないのでしょうか。例えば、要介護者には要介護認定を受けた時に、障害者には障害者手帳交付時に、妊産婦には母子手帳交付時に登録用紙を一緒にお渡しする等、行政の日々の業務の中にリンクさせていくことも1つの方法ではないかと思います。災害対策とは、決して一部で取り組むものではなく、市全体で対応すべきものです。名簿登録についても、日々の行政の中にしっかりと位置付けていけば、対象者が漏れることなく登録されるはずです。さらに、そう

いった人たちを災害時の被害から守ることにつながるのではないかと思います。

【回答】（総務部長）

災害時の要援護者名簿の更新が遅れていることについては、大変ご迷惑をお掛けし、申し訳ございません。

現状についてご説明させていただきます。平成26年6月から、ご本人の同意をいただいた3,216人の要援護者の行政区別名簿を、地元の区長及び民生委員等の皆様に提供しており、その名簿更新作業を年1回行う予定でした。この更新作業をスムーズに行うため、昨年度、要援護者台帳管理システムを新たに導入し、本年4月から運用を開始したところです。現在、システムの動作確認、名簿搭載された3,200人前後の引継作業及び新規の申請約500件の登録作業を行っています。更新された名簿については、7月までには何とか提供できるよう、鋭意努力して取り組んでいますので、ご理解いただき、もう暫くお待ちいただきますようお願いいたします。

また、このシステムを導入し、いざ災害が発生した際には、災害対策基本法の改正により、災害時には要援護者本人の情報提供合意の有無に関わらず、最新の情報で名簿を作成及び提供することができるようになったところです。

また、ご指摘いただきました登録に関する周知方法についてですが、積極的に窓口等で勧奨できるよう、今後、関係部局と検討してまいります。

その後の対応

5月12日（木）に、災害時要援護者支援関係課長会議を開催し、制度に係る窓口での周知及びチラシの配付について確認を行うとともに、要援護者名簿の作成に関する事務について、関係課で対応していくことを再確認しました。

◆境島村地区における人口減少対策について

【質問】

伊勢崎市は、全国的に人口減少が続いている中、数少ない人口増加の都市であるという話がありましたが、伊勢崎市の人口減少対策等についてどうお考えになっているのかお伺いしたいと思います。と言うのも、私の住んでいる利根川南部の地域では、まさに、人口減少が進んでいるからです。特に、少子高齢化ということで、65歳以上の高齢者率が40%を超える状況にあります。また、合併して10年経ちますが、少子化については、合併当初から明らかなことだったのではないのでしょうか。当然、伊勢崎市においても、このような状況になろうことは把握していたはずだと思いますが、この10年間、それらを解消するために、市はどのような対策をとってきたのでしょうか。

今年3月、143年の歴史を誇る境島小学校が閉校となりました。このままの状態が続くと、10年後には、私たちの地域はどのようなになってしまうのでしょうか。少子化が進み、高齢者ばかりとなり、さらに、その高齢者さえいなくなってしまった時には、まさに地域としての存立が危ぶまれる状況になってしまうのではないのでしょうか。なぜ、利根川南部の地域が今のような状況になってしまったのか、その大きな原因はどこにあるのか、そういったことをしっかりと把握していただきたいと思います。

まち・ひと・しごと創生ということで、大変大きな内容ではありますが、私たちは、今現在の境島村地区、特に利根川南部の状況を見ると、この先のことが非常に心配になりま

す。世界遺産がありますが、この世界遺産を維持する住民すらいなくなってしまうのではないかと危惧しています。伊勢崎市全体としての人口は増加しているのかもしれませんが、利根川南部の地域についてはどのようにお考えなのか、また、この10年間、市はどのような対策をとられてきたのかお伺いしたいと思います。

【回答】（市長）

市全体としては人口が増加している状況ですが、ご指摘のとおり、境島村地区においては、残念ながら人口が減少している状況にあります。これは、境島村地区だけでなく、旧伊勢崎地区においても、特に駅周辺の地域、南地区及び北地区等で、いわゆるドーナツ化現象による人口減少が見られます。その他、例えば、豊受、三郷、宮郷、茂呂地区等においては、新興住宅地等により人口が増えているところもあります。また、学校等については、宮郷地区で学校を増設する、赤堀地区で新しい中学校を建設するといった状況もあります。人口が減少しているところもあれば、増加しているところもありますが、これらの原因は、1つということではなく、様々な要素が重なった結果だと思えます。

私は、就任当初から、全市域の均衡ある発展を目指すことが大事だと考えていますので、そのために考えられるいろいろな施策を進めてまいりました。なかなか功を奏さないこともあり、皆様にご満足いただけない部分もあろうかと思いますが、これからも決して諦めることなく、考えられる施策をしっかりと進めていきたいと考えていますので、今後とも、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

◇閉会あいさつ（市長）

本日は、夜分お疲れのところ、また、お忙しい中、このように多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

皆様からいただきましたご質問、ご要望等についても、今後、さらに気を引き締め、しっかり取り組んでまいりたいと思います。

今後も、皆様のご指導、ご理解、ご協力をお願い申し上げ、お礼のご挨拶とさせていただきます。

本日は、大変ありがとうございました。

5 閉 会（企画調整課長）

（8：00）